



舟橋中学校だより

Funahashi Junior High School News

令和5年度 学校評価 特別号 令和6年3月13日

本校の教育目標

「学び」の精神をもち、
仲間を思いやり、
たくましく生きる生徒の育成

令和5年度 舟橋中学校の教育活動についての振り返り

校長 内生蔵 保人



令和5年度もあとわずかとなりました。

保護者の皆様、地域の皆様には、年度当初より本校の教育活動に対するご理解、ご協力をいただき感謝申し上げます。

さて、年度末にあたり、今年度の学校としての活動を振り返るとともに、保護者の皆様にご協力いただきましたアンケート等の結果についても以下のようにまとめましたのでお知らせいたします。

また、この内容につきましては、去る3月5日(火)に行われた舟橋村小・中学校運営協議会においても報告し、協議の上、次年度に向けたご意見をいただいております。

1 本校の教育目標具体化に向けて

- ・本校の教育目標は、「『学び』の精神をもち、仲間を思いやり、たくましく生きる生徒の育成」です。その具現化に向けて、知・徳・体の3つの柱から具体目標やアクションプラン（より具体的な数値目標を設定したもの）を設定し取り組んできました。
- ・本校の教育活動の振り返りについては、例年以下のような取組をもとに評価し、次年度の活動改善に繋げています。

☐ 各種行事おける生徒による自己評価

☐ 生徒による授業評価

☐ 舟橋村小・中学校運営協議会

☐ 学習に対する生徒の自己評価

☐ 保護者によるアンケート調査

☐ 地域、保護者の方々からのご意見等

2 具体的な施策の振り返り

(1)知部門（学習について）



ア 「学び合い」の充実

- ・アのように、「学び合い」の授業形態を軸とした活用・探究型の授業をバランスよく取り入れる授業改善を図り、アウトプットの活動の中で、一人一人の意欲的な取組と学習内容の活用を目指しています。



イ ICTの活用

- ・イのように、普段から一人一台端末を使った授業を展開することにより、学習内容を効率よく理解することができるとともに、個別の調べ学習やまとめができています。



ウ TT指導

- ・ウのように、複数の教員が一緒に授業を担当し、個々の生徒の課題を把握して支援することにより、基礎学力の確かな定着を目指しています。

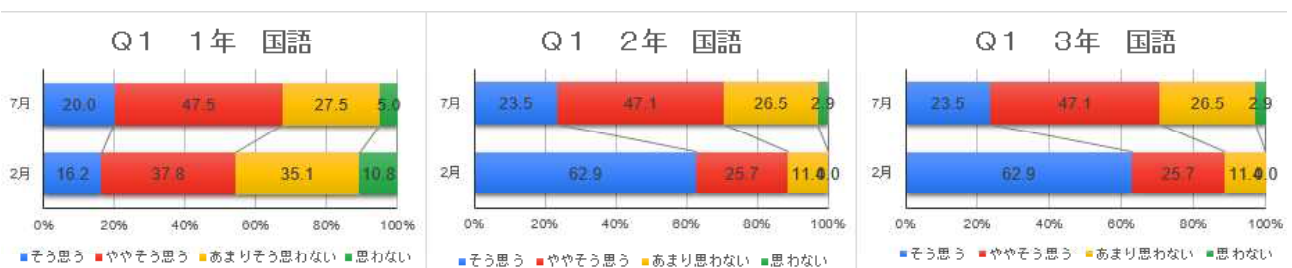
●全国学力学習状況調査の結果から

村報10月号でお知らせしたように、今年度の調査結果は、3教科すべての平均正答率が全国平均や県平均を上回っています。その中で課題として浮かび上がってきたことは、基礎的・基本的な知識・技能の活用と定着です。英語科では「社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができる」「日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができる」の正答率が低かったことから、自分の考えをもち、それを表現する力を育成することが大切だと分かりました。

また、教師側のねらいや思いが生徒にどのように受け止められているかを確認しながら授業を改善するために、昨年度に引き続き、『生徒の授業に対する自己評価』と『生徒による授業評価』を実施し、改善を試みています。

【アンケートの一部】

Q1 家庭で予習や復習の時間をとっている。



Q1の結果から、7月から2月にかけて、2, 3年生では家庭学習への意識の向上がみられます。3年生では進路への意識、2年生ではTo-Doリストによる助言や進路学習が意識向上に影響したのではないかと推察されます。

Q6「難しさや進度が合っている」 Q9「黒板文字の大きさ、ていねいさが適切で、内容整理がされている」の結果から、板書の改善、進度や難易度、教具の見直しが必要だと推察される教科がありました。また、授業の情報量に見合った個々の時間の設定（ノートをとる時間、個々に学んだことを確認する時間）が必要だと感じている生徒もいます。今後も教師側が改善を図ることにより、よりよい授業を生徒と一緒につくっていきたいと考えます。

(2)徳部門(心の教育について)



エ 修学旅行 平和学習 オ「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」 カ 絵本の読み聞かせ

- ・エのように、広島・関西方面への修学旅行では、平和学習や集団生活の体験により、友人の大切さとともに世界平和への意識を高めることができました。
- ・オのように、地域事業所の協力により「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」を実施しました。13の事業所で5日間の職場体験活動に取り組み、規範意識や社会性を高める機会を得

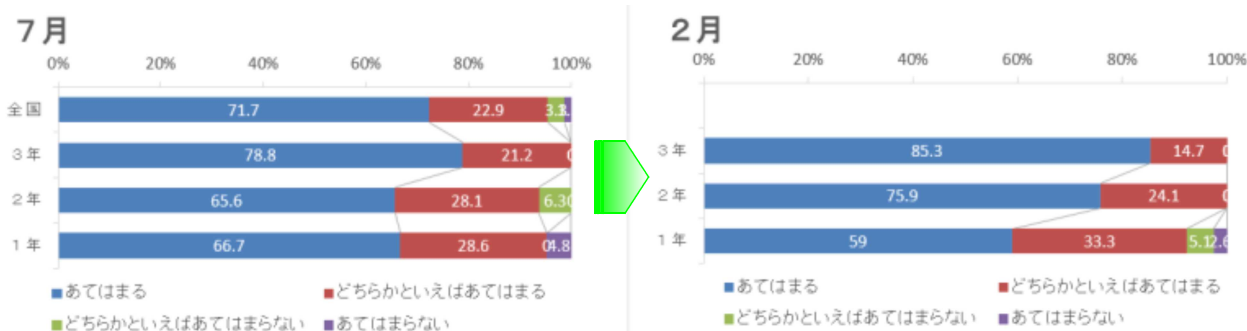
ました。「自分のよさや可能性を見つけた」「地域社会や家族に感謝したい」などの感想が多くみられました。

- ・カのように、1年生が小学校で絵本の読み聞かせを行うことが、伝統として位置付いています。小学校での「聞き手」としての経験を生かし、相手に配慮しながら活動を工夫するなど、後輩を温かく見守る優しさを培うことができました。

●生徒質問紙の結果から

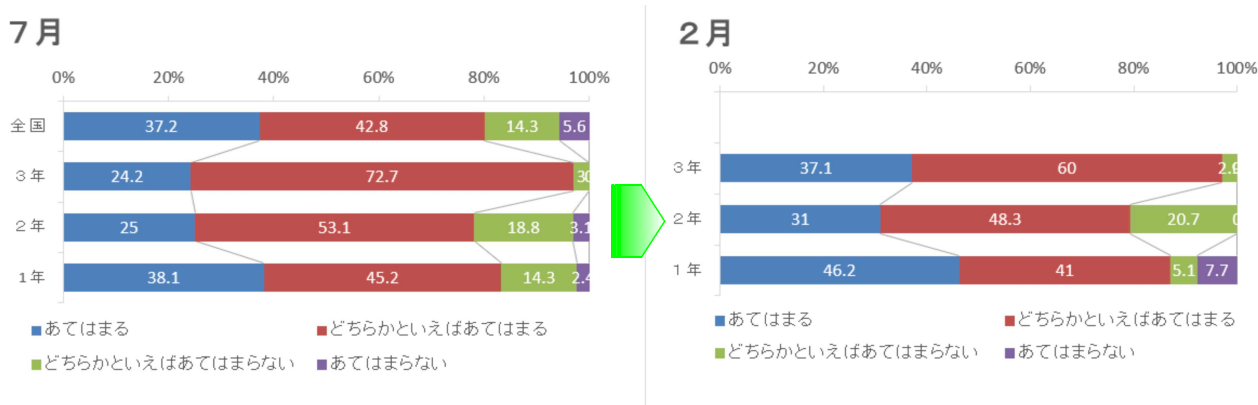
生徒のアンケート結果から、以下の2点について考察します。

下図は、「自分には、よいところがあると思う」という質問の【7月】と【2月】の結果です。



7月、2月の2回の調査ではありますが、全国とほぼ同様の8割～9割の生徒が、1年を通じて、肯定的に自分のよさを捉えています。自分自身への肯定感が向上するのは、学校での取組の努力を認めたり、授業など活躍をきちんと評価したりすることが功を奏していると考えます。さらに肯定感を向上させるためには、家族からの信頼や何気ない感謝の「ありがとう」が効果的であると言われています。今後も学校での生徒の頑張りを家庭に伝えながら、自分のよさを素直に認めることができる生徒の育成に努めたいと考えます。

次に、下図は「学校に行くのは楽しいと思う」という質問の【7月】と【2月】の結果です。



7月、2月の2回の調査ともに、「学校に行くのは楽しい」と肯定的に捉えている割合の傾向は、3年生が全国平均（81.8%）を上回り、1、2年生が全国とほぼ同じと考えられます。

今後も毎月の生活アンケートや今回の質問紙等を実施し、全体の傾向を把握するとともに、日々の生活ノートや授業中の様子などを通して生徒の思いを丁寧に理解していきたいと考えています。

また、生徒一人ひとりの小さな成長に目を向け、認め励ますことで生徒が安心して学校生活を送ることができるように支援するとともに、「楽しい学校」のイメージを生徒と共有しながら教育活動を進めたいと考えます。

(3)体部門（スポーツテストや視力等に関して）

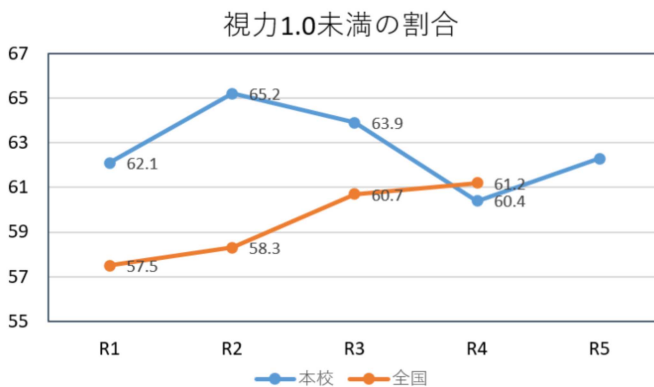
スポーツ庁の報告では、学校で実施しているスポーツテストの体力合計点が令和元年度調査から連続する低下傾向が緩やかになり、小・中学校の男子は増加したが、女子は引き続き低下していると報じています。

本校の男女別の傾向は以下の通りです。

- ・男子：県や全国の平均とほぼ同じで、経年変化としてはやや低下が見られる。
- ・女子：県や全国の平均をやや下回り、昨年度から転じて低下傾向が見られる。

この結果を受け、今後は保健体育課の授業や運動部活動を中心として、運動時間の確保や基礎体力の向上をより意識するとともに、軽運動の紹介等を通じて運動意識の向上に努めたいと考えます。

●視力検査の結果から



【視力1.0未満の経年変化】

メディア利用時間の増加やタブレット端末の利用が進みつつある現在、視力低下は全国的な成長期の課題の一つです。グラフは視力1.0未満の本校全体と全国の割合の経年変化を表しています。全国の割合は令和元年度から少しずつ高くなっています。本校は令和2年度から改善傾向がありましたが、今年度は少し割合が高くなりました。メディアに触れる時間が長くなりがちな生活は、視力だけではなく、睡眠時間へも影響を与えることが考えられます。また、中等度～軽度の肥満傾向にある生徒の割合が県や全国平均より高いという状況もみられることから、望ましい運動習慣・生活習慣が身に付くよう支援していきたいと考えます。具体的には、今年度行った「生活リズムチェック」を来年度も引き続き実施するなど、地域学校保健委員会(舟橋小学校5年生と本校2年生の合同事業)等を通して、小学校と協働し、各家庭と連携して身に付けさせていきたいと考えます。

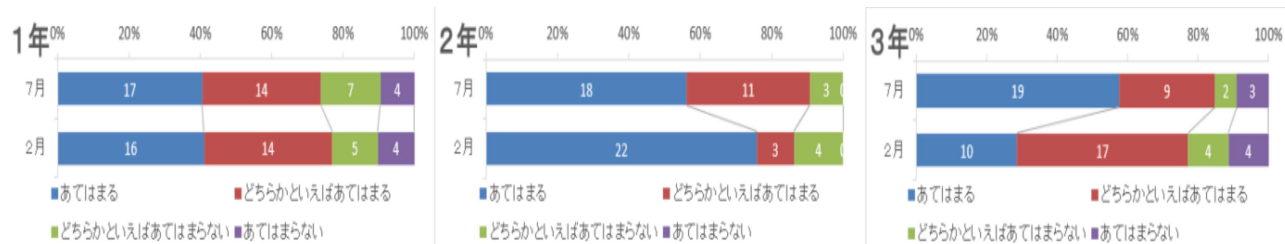
【地域学校保健委員会】

(4)アクションプランの振り返り

令和4年度より、以下のような3つの教師目標を定め、実践に取り組み、今年度は2年目となっています。

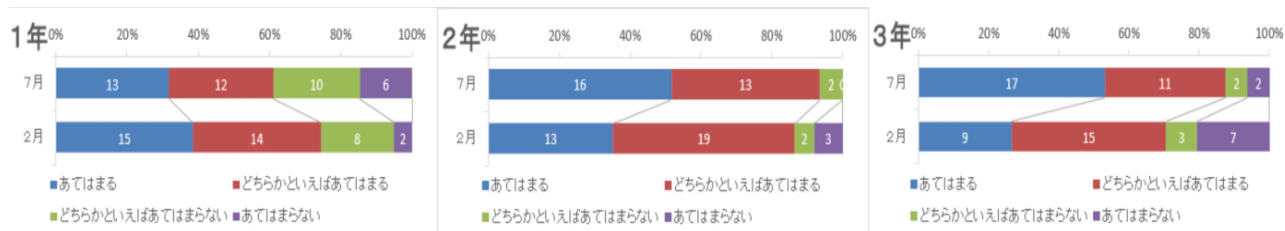
- ①TDL、自学ノートによる家庭学習への週1回の助言を100%行う。
- ②TDLによるメディア利用時間への週1回の助言を100%行う。
- ③「自主・自律、自由と責任」の道徳科授業を学期2回それぞれを100%行う。

①「TDL、自学ノートによる家庭学習への助言（週1回）があった」



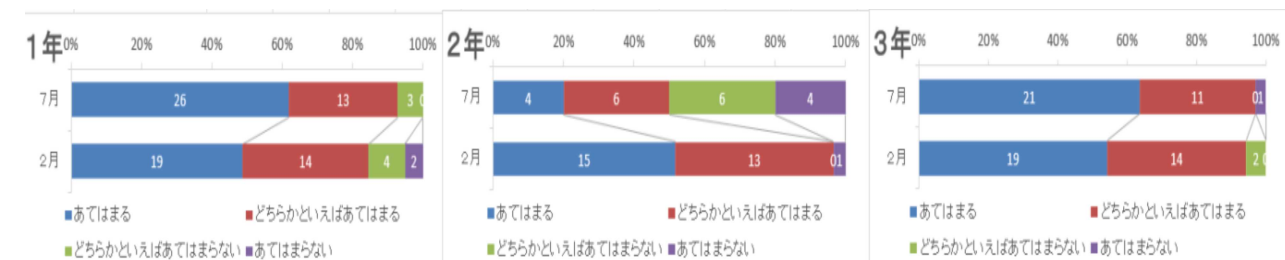
上図の通り、全学年で肯定的な回答が8割程度あり、生徒から一定の評価を受けています。1年生では「自学自習とTDLを毎日おこなえるように頑張る」「生活習慣を見直したい」という意見が見られました。自己管理のスキルを身に付け、自分自身を管理し、時間を効果的に使う方法や目標を設定する方法を学ぶ機会を提供することは、自主性を発展させる上で重要だと考えます。今後も学校全体で「自学ノートとTDL」を活用することにより、家庭学習の充実、望ましい生活習慣の確立に努めていきます。

②「TDLによるメディア利用時間への助言（週1回）があった」



1年生では7月に比べて、意識の高まりが見られます。また、①の結果と同様に2，3年生では8割～9割ほどの肯定的な回答がみられます。ぜひ、ご家庭でもTDLの助言を参考にしながらメディア利用に関するルールづくりやルールの確認について話題にさせていただくとともに、家族全体でメディアの効果的、健康的な活用に向けて取り組んでいくことが大切であると考えます。

③「自主・自律、自由と責任」に関する道徳科授業が学期に2回あった」



昨年度より、本校の生徒に特に大切にしてほしい道徳的価値として、「特別の教科 道徳」（以下、道徳科）の時間における重点項目を「自主・自律」とし、これをテーマにした道徳科の授業を年間を通して複数回実施しました。どの学年においても肯定的な回答の割合が高いことから、自主性や計画性の大切さを実感する道徳科の授業が展開できたものと推察されます。生徒一人ひとりの価値観が向上するには「自主・自律」や「自由と責任」について考える時間や想起させる経験が必要です。

今後も、「自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつこと」は、一人一人が自分らしく学んでいく上で欠かせない価値であることを念頭にし、全教育活動を通じて、このような態度を育てていきたいと考えます。他律から自律への成長をご家庭でも見守り、励ましていただければと思います。学校として、全ての生徒が安心してのびのびと過ごせる学習環境づくりに努めていきます。

3 保護者アンケートやご意見から



キ 体育大会



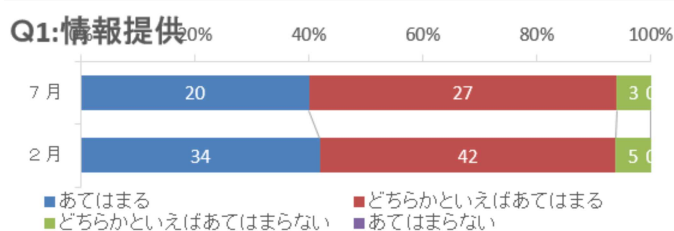
ク 学習発表会



ケ 学習参観

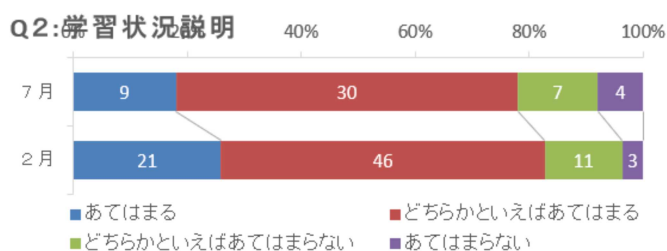
- ・キのように、体育大会では熱中症への対策を講じながら実施しました。育成会からも予行練習と本番で生徒にお茶を提供していただくなど、ご協力いただきました。
- ・クのように、学習発表会は、学年ごとの入場制限は設けず、多くの来場者に自由に観覧いただきました。育成会によるスイーツデザートの提供は生徒たちに大好評でした。
- ・ケのように、学習参観や三者懇談会等においてお子さんの様子や授業の様子をご覧いただいたり、ご相談をいただいたりしています。日々のご意見や以下のアンケート結果を生かしながらよりよい学校づくりに努めたいと考えています。

(1) 学校からの情報提供について



学校だよりやホームページ、安全メール等で学校からのお知らせを行っていることについては、多くの方々に肯定的な回答をいただいています。

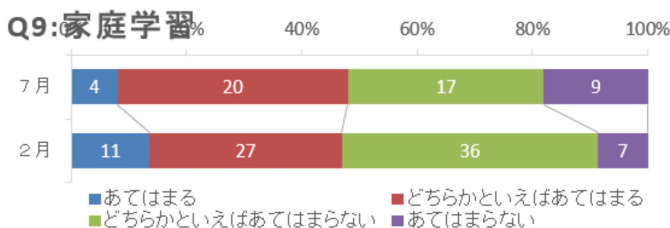
(2) 学力の状況に関する説明について



1年を通じて7割～8割ほどの肯定的な回答をいただいています。各テスト毎に成績連絡票等をもとに面談をしながら生徒への説明をしていますが、保護者の方々への情報の伝え方に工夫が必要と考えています。

一人一人の状況も異なるため、共通した紙面での説明が難しい場合もあります。ご質問等がありましたらぜひ学校にご連絡いただけるとありがたいです。

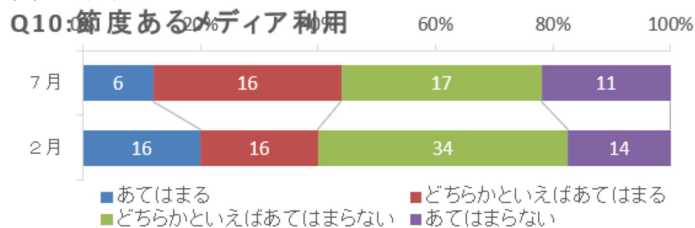
(3) 家庭学習の充実



肯定的な回答が5割程度となっております。学校では、「自学ノートとTDL」の取組を通して、生徒の主体的な学びを促すように努めております。今後も懇談会等の機会に、生徒の取組状況を伝えたり、学習方法についてアドバイスしたり

するなど、家庭学習が充実するように働きかけを工夫していきます。

(4) 学習やメディアの利用



肯定的な回答は4割となっておりま
す。学校では、TDLへの助言を通し
て、メディアの健全な利用を促すよう
努めているところです。各ご家庭にお
かれまして、メディア利用に関するル
ールづくりやルールの確認について話

題にさせていただき、家族全体でメディアの効果的、健康的な活用に向けて、話し合っ
ていただければと思います。メディア利用には、情報活用能力が向上するという利
点もありますが、利用時間の管理（目の健康や依存症等、心身の健康への配慮）、他
者との関わりや思いやり、法の遵守（個人情報やプライバシー）等、様々な課題もあ
ることから、今後も学校と家庭が協力し合って、生徒たちが健全なメディア利用の習
慣を身につけていけるように支援したいと考えます。

4 まとめ

(1) 学習意欲・学力の向上について

自分で計画を立てて、家庭学習の時間を確保していると肯定的に捉えている生徒の割
合が高いこと、自分とちがう意見について考えることを楽しいと感じ、話し合う活動
を通じて自分の考えを深めたり広げたりしている割合が高いことから、TDL&自学ノ
ートにより、学習や時間の管理を進めている生徒が多いことや、学級集団の親和性を土
台とした「学び合い」が、生徒の学力向上に寄与していることが推察されます。今後
もこれらの取組を継続していきたいと考えます。また、授業形態の工夫によって基礎的・
基本的な知識・技能の習得と活用を促すとともに、「ふなはし『学び合い』スタイル」を軸
とした活用・探究型の授業をバランスよく取り入れながら授業改善を図ります。

日々の学習への取組を認め励まし、成長を喜び合いながら、生徒と教員の信頼関係を
大切にし、安心して学び合える集団づくりに努めます。

(2) 保護者との連携について

今年度、安全面・衛生面で、通学路の危険箇所についてや校内の環境整備に向けて
のご意見をいただくなど、保護者の皆様に特別にご協力いただきました。また、健康
面では「地域学校保健委員会」の取組を中心に、目の健康を意識した生活習慣の理解
と実践を推進してきました。睡眠・栄養・運動等の規則正しい生活が低視力予防だけ
でなく、体力や学力の向上と関連していることも伝えながら、毎日適度な運動を実践
させるなど、今後も家庭と連携して活動を進めていきたいと考えております。

今年度いただいた、安全・安心な学校づくり、学習環境の改善に関するご意見につ
いて、関係の方々との連携を図りながら改善に努めます。また、今後も保護者の皆様
からの率直なご意見や評価が得られるよう、情報発信を積極的に行なうとともに、I
CTを活用しながらアンケートを実施していきたいと思ひます。今後とも本校の教育
活動にご理解、ご協力の程何卒よろしくお願いいたします。